

『静岡の在来作物の継承・営農型太陽光発電』

主催: 静岡市清水産業・情報プラザ (指定管理者: 静岡商工会議所)

共催: 新産業開発振興機構、静岡県農業高等学校校長会

今回は、静岡農業高校を会場に、大学研究者、企業、高校関係者が講演や発表を行います。講演者や発表者等と交流を持ち、今後の企業活動等に活かしていただければ幸いです。尚、今回はハイブリッド(会場聴講とオンライン聴講)講演会とさせていただきます。多数の方のご参加をお待ちしております。

開催日時 2023年 2月 3日 (金) 講演会 16:00~17:50

方法 会場聴講 : 静岡県立静岡農業高等学校 5階 視聴覚室

オンライン : Zoom ウェビナーの聴講 URL アドレスをご連絡いたします

研究発表 『在来作物を次世代へ ~静岡市の「種子・植物バンク」を目指して~』

静岡県立静岡農業高等学校 生物工学部

企業発表 『スマートブルーの営農型太陽光発電の展開』

スマートブルー株式会社 コンサルティング事業部 アグリビジネス課

ディレクター 浅井 裕貴 氏

講演 『植物生理生態学から見た営農型太陽光発電のメリット・デメリットと

農業の持続可能性』

静岡県立大学 食品栄養科学部 環境生命科学科 教授 谷 晃 氏

参加料 無料

定員 会場聴講 60名 オンライン聴講 100名 (Zoom ウェビナーを利用いたします)

申込方法 下記申込書に記入してFax、E-mailで申し込み下さい。

*コロナ禍の開催につき必ず電話番号、メールアドレスをご記入下さい。

事務局 静岡商工会議所 産業振興課 (担当: 三浦、堀川)

TEL:054-355-5400 FAX:054-352-7817 e-mail:info@siip.jp



本会には、宝くじ
収益金の一部が
使用されています

※申込書にご記入いただいた情報は、静岡商工会議所からの各種連絡・情報提供に利用する事がありますことをご了承下さい。

第143回「移動産学官交流」講演会(静岡農業高校) 参加申込書

2023年2月3日(金)開催

Fax 054-352-7817

事業所名			
TEL		e-mail	
参加者	氏名	所属・役職	
	※参加項目にレ点を付けてください <input type="checkbox"/> 会場聴講 <input type="checkbox"/> オンライン聴講 (メールアドレス: _____)		

※申込書にご記入いただいた情報は、当日名簿として利用するほか、商工会議所からの各種連絡・情報提供に利用する事がありますのでご了承ください。又、今後の『産学官交流会』のご案内を送付させていただきます。

(原則e-mail 案内とさせていただきます。)

研究発表：『 在来作物を次世代へ ～静岡市の「種子・植物バンク」を目指して～ 』

静岡県立静岡農業高等学校 生物工学部

私達は昨年度から地域の遺伝資源を守ることを目指し静岡市の「種子・植物バンク」を開設しました。大谷の「かつぶし芋」、井川の「緑小豆」、「白小豆」、「井川大ビル」、梅ヶ島の「すじなし豆」等の市内の在来作物を栽培し、圃場展示を行ない、珍しくなってしまった在来作物を見学できる場所を作りました。また、植物組織培養による試験管内での保存に挑戦してきました。しかし、在来作物の収量が大変低く植物組織培養でも枯死が多かったため、今年度は在来作物の栽培方法及び培養方法の検討を行ないました。さらに次世代へ地域の在来作物の魅力を伝えるために、園児への食育、小中学生への講座を行ないました。



企業発表：『 スマートブルーの営農型太陽光発電の展開 』

スマートブルー株式会社 コンサルティング事業部 アグリビジネス課 ディレクター 浅井 裕貴 氏

スマートブルー株式会社は再生可能エネルギーの創出を通じて、持続可能な社会の実現を目指しています。その中で、農地に支柱を立てて太陽光発電と農業生産を両立させる「営農型太陽光発電」の普及にも力を入れてきました。これまでにスマートブルーが行ってきた営農型太陽光発電への取り組みと、これからの展開についてお話をさせていただきます。



【略歴】 静岡県磐田市出身。大学、大学院ではお米のデンプン合成に関する研究を行った。大学院卒業後、食品メーカー就職。その後、農業に関連する仕事に興味を持ち、植物工場用栽培設備のメーカーを経て、スマートブルー株式会社に入社。現在はアグリビジネス課に所属し、営農型太陽光発電の販売、自社農場の運営、農産物の販路開拓などに従事している。

講演：『 植物生理生態学から見た営農型太陽光発電のメリット・デメリットと

農業の持続可能性 』

静岡県立大学 食品栄養科学部 環境生命学科 教授 谷 晃 氏

農地の上に太陽光発電パネルを設置して、農業を営みながら売電し収入が得られる営農型太陽光発電が普及しつつあります。エネルギー生産に貢献することに加え、作物収入に加えて売電収入が得られることは、農業の魅力をアップでき、農家の経営安定化や後継者確保、さらに農地の維持につながります。他方、太陽光発電パネルを高密度で並べすぎ光量が不足し、作物が満足に育たない事例も散見されます。本講演では、植物生理生態学の視点から、作物の生育や営農に及ぼす営農型太陽光発電のメリット、デメリット、適切な活用方法についてお話します。

【略歴・受賞歴】 大阪府立大学大学院農学研究科博士後期課程中退・博士(農学)。大阪府立大学農学部助手、東海大学開発工学部講師、助教授を経て、静岡県立大学環境科学研究所准教授、2015年より食品栄養科学部准教授、2017年より現職。植物環境調節工学、農業気象学、大気環境学、生態工学が専門。国家資格の気象予報士および通訳案内士(英語)を45歳～48歳の間に取得。大学ではSDGsイニチアティブ推進委員長(学長補佐)を務める。日本学術会議第25期連携会員。生態工学会学術賞(2007年)、日本農業気象学会学術賞(2017年)を受賞。

